

山下理事長祝辞



私は昭和19年、専修大学法学部を卒業した山下徳夫でございます。先輩という立場から諸君に祝意を表紙、ご挨拶を申し上げたいと思います。

ご存知の通り、少子化が進むにつれ大学の入学適齢人口が毎年減っています。全国の700近い大学の中で、定員割れのところが増えていますが、本学は昨年に比べて3090名志願者が増えました(一部全制度)。そういう倍率の高い中から、めでたく

合格された、その意味で重ねて諸君とご父母の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

まず諸君に申し上げたいことは、これから本学で勉学に勤しまれるわけですから、はじめに建学の精神である「社会にたいあうる報恩奉仕」と学風の「質実剛健」「誠実力行」を座右の銘としていただきたいと思います。

いま国の内外を見ますと、大変に混乱していることが多い。国内においては政治・経済が、国外においては、イスラエルとパレスチナの争いが日を増して激化しています。

私は2カ月くらい前に「NHKスペシャル」という番組を見ました。今日のアフリカの状況を、つぶさに報道したものです。その中の一つに「引き裂かれた大地」というのがありました。これはジンバブエの状況を中心として放映されたものですが、意外に思ったのは、ムカベという大統領が前回の選挙の時に「白人たちが持っている農場を、占拠する人たちの行為は称賛するべきである」と言っていることです。こういう面を見ますと、従来の秩序というものが、もはや秩序ではなくなって来てるのかなと、訝しく思うのであります。

一番大きな原因は、貧困であろうかと思えます。いま世界に55億の人口があるとするならば、その1割弱の8億人以上の人が空腹を訴えています。さらに1年間に1500万人の人が餓死しているという現状を、私どもは忘れてはいけません。すべてこれは貧困からきている、非常に大きな問題だと思えます。

最近マンガ喫茶というのがたくさん出来て、一番利用しているのが大学生です。3、4時間もそこでマンガを読みふけているということですが、私はこれでよいのかな、と思えます。

諸君に特に言いたいことは、マンガを読む時間を減らして、国の内外、特に世界の現状というものをよく見る。世界地図を広げて、各所を見ることも有意義でしょう。

また、大学は学問の府で、勉強するのが第一あるのは当然ですが、学生時代でなければ味わえない、サークル活動であったりスポーツであったり、学問以外のことを体験することも良いことだと思えます。

諸君のこれからの生涯は、まさに春秋に富んでいます。さまざまな分野で大きな活躍をされると思いますが、ここで私から要望したいことが二つあります。

一つは平成16年度から法科大学院という制度が発足します。本学も開設の準備に入っていますが、この大学院は、法学部だけではなく、あらゆる学問に門戸を開いて、入学できる制度になっています。ただ法科大学院は、法曹界に奉職する人を養成するのが目的ですが、何名合格したかという実績が、従来の司法試験や行政職の試験以上に大学の評価・ランクになると思われます。ですから一人でも多くの諸君が受験し、法曹を志していただきたいと要望しておきます。

最後に、どうか諸君の中から一人でも多くの人が政治を志し、国会を目指して頑張っていたいただきたいということです。現在の衆参両院の議員数を出身学校別に見ますと東

大が144人、次が早稲田で、慶應、中央、京大と続き、さらに日大、明治となっています。

本学OBも、現在3名が国会議員として有しておりますが、もし10名、国会に席を列ねるならば、国公立を含めてベストテンに入ります。

いま国会では、いろいろな問題が起き、少なくとも国会が国権の最高機関であることは間違いありません。しかも議員内閣制においては、総理大臣は18人替わりしました。その18人の中で、東大の卒業生はわずか4人しかいません。佐藤栄作、福田赳夫、中曽根康弘、宮澤喜一、この4名の方だけです。あとは私立大学の出身者がほとんど総理大臣になっています。諸君がこれから大いに羽ばたくところ、その最も高い理想とすべきところは国会であるということを一度、諸君たちにもよく考えていただきたいと思うのであります。

諸君の大成を心から祈念いたしまして、ごあいさついたします。

[4月15日/ニュース専修1面]